



7月の園だより

令和5年 7月 1日

目黒区立目黒本町保育園園長

園庭のプランターの野菜が収穫の時を迎えています。2歳児クラスは大きく育ったきゅうりを栄養士が子どもたちの目の前でスティックに切り、直接子どもたちの手に渡しました。お皿やフォークを使わずに手で持つことに一瞬戸惑った表情でしたが、保育士がカリッと音をたててかじりつき「おいしい」と声を上げると、子どもたちもつられてぱくっとかじりました。「おいしい」「つめたいね」「おかわり」と嬉しそうに声をあげて友達と顔を見合わせていました。友達が楽しそうにしている雰囲気の中に普段は野菜が苦手な子がいました。まわりが美味しそうに笑っているのでも自らもきゅうりを口にいられて、友達と一緒にその場の楽しさを分かち合っていました。毎日様々なことを一緒に経験し喜んだり、驚いたり、時には不安なことを友達と一緒に感じながら絆を深めていくのだなと感じる一場面でした。保育園が子ども達にとって暖かく「仲間のいる場所」になっていけるように、子どもたち同士の関わりを見守り援助していききたいと思います。

今年度から新しいプールが設置され、プール遊びへの期待を高めています。一人ひとりのお子さんの体調を保護者の方々と共に十分注意し、安心安全な水、プール遊びを行っていきます。



行事予定

プール開き	3, 4, 5歳児
七夕	3, 4, 5歳児
夏祭り	全園児
笹焼き	3, 4, 5歳児
中旬	身体計測・避難訓練

熱中症と夏の水分補給について

身体が暑さに慣れていないこの時期や、急激に気温があがった日は、特に注意が必要です。保育園では暑さ指数、気温の管理に加え、子どもたちの水分補給の頻度を増やし、いつでも水分をとれるように準備し熱中症対策を行っていきます。ご家庭でも朝の水分補給もしっかりと行ってきてくださるよう、お願いいたします。

～これ、たのしいね～ ひよこ組（0歳児）

段ボールが3個繋がっている箱があります。友達が箱の中に入るのを見て、“私も”と中へ入ろうとします。箱の中に両手をつき、上半身は箱の中、足だけが箱の中に入れません。でも、入りたい思いは強く、体をよじらせ、足を入れようと懸命です。保育士が少し介助するとようやく中にはいれました。先に入っていた友達と顔を見合わせ、満面の笑顔です。「がたがたバス」と保育士が歌いながら箱を前後に揺らすと嬉しそうにニコニコしています。歌い終わると1人の子が人差し指を1本立てて“もうっかい”と言うようにリクエストしているので“もう一回やる”と聞くと“うんうん”頷いています。何回か繰り返し楽しんでいると、他の友達もやってきて中に入ろうとしたので押すのをやめると「んっんっ」と声を出して早く動かしてとアピールしています。3人が乗り込んだので保育士が箱を押そうとすると流石に重くスムーズに動きません。すると自ら体を前後に揺らし、もっといっぱい動かしてと言っているようでした。子どもたちが興味を示したことに、保育士と一緒に満足するまで繰り返し楽しんでいきます。



～ 室内遊びの様子 ～

★こぐま組（3歳児）★

おやつのできドポテトを栄養士にホットプレートを使って目の前で焼いてもらうことになりました。香ばしい匂いがする横で保育士が「いらっしゃいませドポテト屋さんですよ。もうすぐ焼きたてをお持ちします」と店員になりきって配膳しました。出来立てのポテトは普段より特別な味に感じて「おいしいね」と言いながらあっという間に食べ終わりました。その後すぐにポテト屋さんごっこが始まります。子どもたちが「いらっしゃいませポテト屋さんです」と呼び込み、今度は子どもたちのポテト屋が開店です。黄色の積み木を選び「おいしいですよ」「熱いからフーフーしてくださいね」とおやつの際に保育士に言ってもらったように伝えています。積み木のほかにも保育士と一緒に紙を細長く巻いたり、無造作に丸めたりしたものを「これもポテトになるよ」とお皿に載せています。「帽子をかぶっていたよね」「手袋もしていたよね」と画用紙で作ったコック帽子を被り栄養士になりきってドポテト屋さんが続きました。身近で見たことや体験したことを直ぐに再現しています。子どもたちが経験したことやイメージしたことを保育士が膨らませ、友達と遊びを楽しんでいます。

★ぞう組（4歳児）★

お化け屋敷は春からジェットコースターになったり、電車になったりと日々形を変えながら継続して楽しんでいます。先日、段ボールで作ったついたてと椅子を並べ電車ごっこをしていると、そこへ「おばけだぞー」と来た友達の声を引きかけにお化け電車へと変わりました。運転手役の子が「かっぱも来るんじゃない」と話しながら運転をしていると、ミイラ役の子が歩いてきました。カップに来てほしい子と、ミイラをやりたい子は「かっぱがいい」「私はミイラなの」とお互い譲りません。二人の言い合いを乗客役の子は不安そうに見ています。そこで、保育士が「ここはカップ沼の駅かな。えっ、ミイラ学校の近くのの」と乗客の子と話していると、ぱっと笑顔が戻りました。「私はミイラ学校駅で待っています」と言ってミイラ役の子が棚の陰に隠れると、カップの登場を待っていた子も「ここはカップ沼じゃないからカップがいないんだ。出発しますよ」と運転席に戻り、「ミイラ学校駅ですー」とアナウンスしてくれました。ミイラをやりたい子も、カップに来てほしかった子も満足してやりとりを楽しんでいました。きっかけは保育士の一言ですが、友達の発想に“あっ、それもありかも”と受け入れようとする場面もあります。時には思いがぶつかることもありますが保育士がやりとりを見守り、少し援助することで遊ぶことの楽しさを積み重ねていきます。

★らいおん組（5歳児）★

絵の具遊びをしていて、何色か混ぜてどんな色になるか試していると茶色ができました。それを見て「チョコレートみたいだね」と言う子どもたち。一人の子が「チョコバナナ作りたい」とひらめき、さっそく新聞紙でバナナをイメージして作ると「私も作る」と周りで見っていた友達も参加して作り始めました。持ち手を作る為に細く巻いた棒をバナナの先につけてみて色を塗ると「できた！チョコバナナ」と色々な形のチョコバナナが完成しました。モールやストローを用意すると小さく切ってチョコバナナにトッピング。保育士が「ちょこバナナ」と書いた看板を作ると「いらっしゃいませ。チョコバナナはいかがですか」とお店屋さんごっこが始まり「チョコのいい匂いがするね」「この大きいチョコバナナすごいね」「どれにしようかな」と美味しそうなチョコバナナに嬉しそうでした。“渡す、受け取る”のやりとりだけでなく、紙でお金やお財布を作りお店屋さんから縁日をイメージして金魚すくいやボールすくいを考えたりするなど、友達と一緒にアイデアを出し合っって色々な素材を使い作る楽しさ、やり取りする楽しさを味わっていきたいと思います。

